



巻 124 号豊科郷土博物館
友の会報
令和 4 年 3 月 1 日発行

「新博物館構想と友の会の声」

友の会会長 百瀬 新治

博物館や美術館の活用による安曇野の活性化を選挙公約にした、太田新市長が当選し新しい市政が動き始めています。少なくとも博物館を大事にした政策が遂行されるだろうと、郷土博物館の今後に期待が膨らんでいきます。

もう5年以上になりますが、安曇野市新博物館構想が検討され答申案が市長宛に示されています。当時の市長から中長期を見越した実現展望が話されていますが、具体的な内容や時期は明らかにならずに時が過ぎていきます。一方、郷土博物館の現況は、施設の不備と老朽化により誰もが快適に来館使用できる姿にはほど遠いまま据え置かれています。

待った無しの改善について、その必要性を一番実感しているのは私たち友の会会員です。さらには、新博物館がどうあるべきかも、常に利用している私たちが実際の場から提言できる点が多いと思います。教育委員会では検討を重ねていると聞いていますが、博物館友の会としても組織を挙げて新博物館に向けて意見を寄せる時期だと思えます。

即刻の施設整備から市民のための新博物館建設まで、友の会が積極的に声をあげ取組んでいきましょう。その中で、私たち自身はもちろん来館する方々に役立つ活動を実現したく思っています。



【2階への階段

「バリアフリーとはほど遠い博物館施設】

「お寺のなくなった安曇野」

博物館長 原 明芳

昨年12月11日の土曜日、郷土史部会の皆さんと、堀金地区の寺院跡を見学することとなった。一応案内人を頼まれていたので、事前に二度も下見をしておいたし、地元の百瀬前館長からも現地ですらいろいろと教えていただいた。

この日の見学の目的は、安楽寺跡、大同寺跡、薬師堂、さらに大同寺の前身である古薬師のあった場所の見学であった。メインは安楽寺跡。中世後半の創建であるが、明治初期の松本藩の廃仏毀釈によって、廃寺となってしまった。まずは石垣の観察。人に見せつけるための立派な石垣が残り、伽藍を整備するために積み増したことも確認できる。平場は建物が撤去された後、木が生い茂ってしまった。基壇や礎石らしきものがいくつか確認できる。大小さまざまな建物があったことがわかる。その一つ、庫裡は豊科の法蔵寺に移転され現存している。どこにあったかは確認できない。建物の裏には石を組んだ池の跡も残っている。立派な庭もあったのであろう。藪の中をかき分けていくと、歴代住職を始めお坊さんの墓がある。だいぶ荒れてしまっているが、江戸時代に800軒近い檀家をもち、多くお坊さんがいた大寺であったことを感じさせてくれる。大同寺は、祈祷系寺院のため檀家が無く、幕末にはだいぶ衰えていたようだ。廃仏毀釈から150年ほどしか経たないのに、その場所もよくわからない。今回の見学会で住職のお墓を発見することができ、どうにかその位置も推定できそうである。

明治10年頃の長野県の調査によると、南安曇郡には寺院は一つも存在していない。満願寺でさえ一度は廃寺となっている。道沿いに多くのお墓がまとまってある。聞けば、そこは寺跡である。

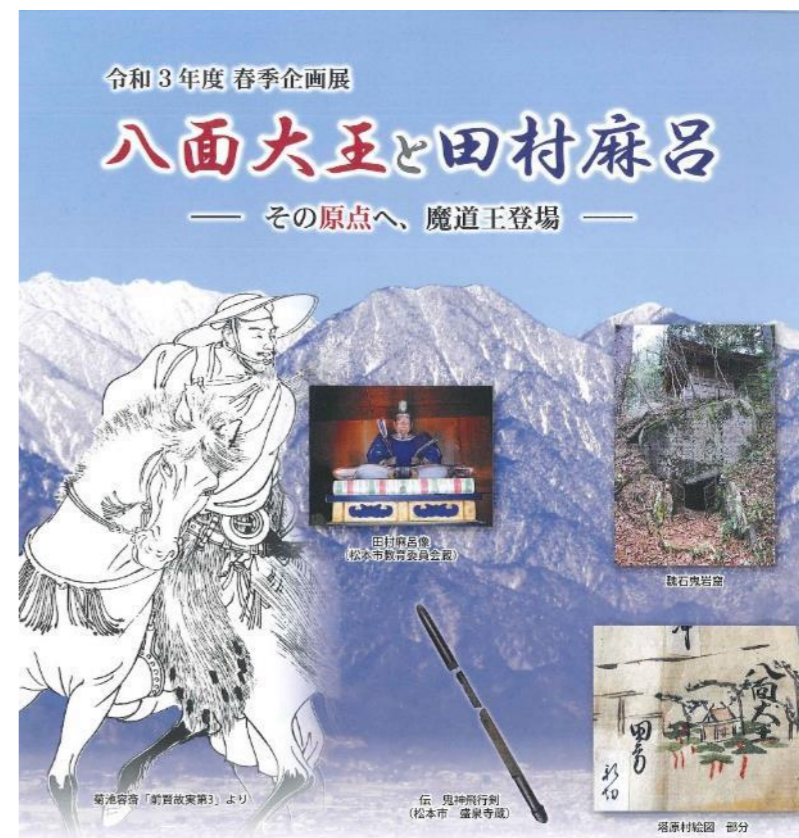
廃仏毀釈を始めた松本藩主は、廃藩置県で松本を去る。そのわずかな期間に多くの寺院が廃寺になってしまい、多くの文化財が失われてしまった。狂気の沙汰というしかない。それは時の権力が押しつけ



【安楽寺跡にある礎石】

ただけでは決してなく、人々もそれに加担したのである。そのせめての罪滅ぼしが、寺跡の多くを学校にすることであった。

令和3年度春季企画展が始まります！



令和4年3月19日(土)～5月22日(日)

<関連イベント>

◆講演会『八面大王伝説』成立の歴史的背景をめぐって』

- ・講師：牛山佳幸 信州大学名誉教授
- ・日時：13:30～15:30
- ・会場：三郷公民館講堂 ・参加費：100円
- ・定員：100名(先着順)
- ・申込：4月1日(金)9:00～博物館へ電話で

◆講座『信府統記』の魏石鬼、魔王道、田村麻呂』

- ・講師：原明芳 館長
- ・日時：5月21日(土)13:30～15:00
- ・会場：豊科公民館大会議室
- ・定員：40名(先着順)
- ・申込：5月11日(水)9:00～博物館へ電話で

◆ギャラリートーク

- ①3月20日(日) ②5月5日(木) ③5月22日(日)
- ・10:00～ ・14:00～ [いずれも30分程度]

◆現地見学会

- ①4月16日(土)9:00～12:00 魏石鬼岩窟などの見学
- ②5月14日(土)9:00～12:00 田村堂と若澤寺の見学
- *詳細は、広報やチラシをご覧ください。

友の会活動

友の会展覧会 ③

1月15日(土)～1月30日(日)

第67回新春書芸展

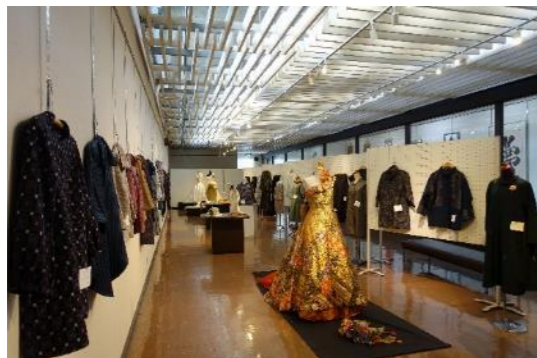


新春にちなんだ漢詩・唐詩や故事など真心のこもった大作15点が出品されました。1月20日(木)には、千野秀濤先生によるギャラリートークも行われました。毛筆による書の力が見る者に感動を与えてくれており、一点一点の作品をじっくりと味わっているお客様がたくさんおられました。



第3回着物リメイク展

思い出が詰まった大切な着物や帯を今の暮らしで活用しやすいドレスやジャケット、ブラウス、バッグなど、巧みに生まれ変わらせた作品約60点が展示されました。もの見事にリメイク



された作品を見ながら、熱心にメモをとったり、感激の感想を綴ったりしているお客様が大勢おられました。

今後の友の会展覧会予定

第38回山草・サクラソウ展

5月3日(火)～5月5日(木)

丹精込めて育てられた山野草・サクラソウが毎年100鉢近く展示されます。是非ご観覧ください。

6月4日(土)～6月19日(日)

第36回写真展

一瞬の表情をとらえたフォト。どんな瞬間が展示されるのか、今から楽しみです!

第17回ボタニカルアート展

植物学的に、特徴などを正確に、しかも美しく魅力的に描かれた『植物学的な芸術』を友の会会員の皆さんもお楽しみください。

自然と暮らしの文化部

自然と暮らしの文化部 宮澤 紀美子

「楽しみながら古来の文化に触れる」

自然と暮らしの文化部は、先人達の暮らしに目を向けた活動をしています。“藍”の葉、蝶の食草である“クララ”、ミカン科の“キハダ”などを使って『草木染め』をしました。仕上りの色合いや風合いは実に様々で驚きます。また、ずいぶん長い間使われることなく眠っていた機織り機を使える状態に整備し、『機織り体験』もしています。このような活動は、部員



だけではなく、小学生とともに活動する機会があり、楽しく体験を共有することができました。

その時代を生きた人々は、身近であった自然を見つめ、知恵と工夫を凝らし生活を営んでいた事に感動し胸をうたれます。そのような大切な文化を、手間暇のかかる細かな作業ですが、協力し合い、若い世代に伝えていける活動につながればと思っています。

タカラさがし部

タカラさがし部長 千村 裕一

安曇野市にはたくさんの「タカラ」があり、皆さんと一緒に体験できました。ヒスイ色の天蚕の幼虫はガの幼虫とは思えないほど美しく、雨の中で輝く宝石のようでした。菖蒲沢の窯跡では木の葉をどけて、土の中から出てくる大昔の焼き物の破片を夢中になって見つけました。破片からツボの形を思い描いて楽しかったですね。黒沢川の洞合公園では虫や花を見つけ自然の豊かさに触れ、時間を忘れて蜻蛉やチョウを追いかけました。北アルプス牧場の牛は大きく優しい目をしていました。おいしい牛乳を出してくれる牛を育てる苦労や願いを知ることができました。長峰山の景色は最高でしたね。植物や虫たちの習性を勉強したり安曇野市の地形についても学んだりできました。皆さんの「見て見たい」「やってみたい」の気持ちに後押しされ、また、「タカラ」を持ってほしいと願うお気持ちが活動を支えてくださっています。本当にありがとうございました。安曇野の「タカラ」に自分の目で見て触れて感動することができました。私たちの住む安曇野市にはまだまだたくさんのタカラがあります。真の「タカラ」は安曇野を大好きな子ども達なのだと思うこの頃です。



令和4年度 博物館展覧会スケジュール(予定)

- ※ 令和4年度 夏季・秋季企画展「安曇野の戦争」
- ※ 令和4年度 春季企画展 「衣をめぐる民俗」(仮)
- ※ 第39回 白鳥写真展

今年度の友の会活動へのご協力、どうもありがとうございました。来年度も引き続き、ご入会を希望される方は改めて会費をお納めください。令和4年度の会員証を発行いたします。タカラさがし部については、4月に小学校を通じて募集のお知らせをします。